

様式1(主な取組)

活動指標名					R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要		
就学支援金交付(高等学校)					実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	8校	8校	100.0%	3,774,629	順調	支給対象である17校(高等学校8校(全日制4校、通信制4校)、専修学校高等課程8校、各種学校1校)の対象生徒に対して就学支援金を支給した。		
	8校	8校	8校	8校	8校	—	100.0%					
活動指標名					R3年度					3,774,629	順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
就学支援金交付(高等学校)					実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度						3,774,629	順調	所得に応じ生徒1名当たり年間118,800円～396,000円の就学に係る学費負担を軽減し、経済困窮世帯における児童生徒の学習機会の確保に貢献した。
活動指標名					R3年度			3,774,629	順調			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
就学支援金交付(高等学校)					実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度				3,774,629	順調			所得に応じ生徒1名当たり年間118,800円～396,000円の就学に係る学費負担を軽減し、経済困窮世帯における児童生徒の学習機会の確保に貢献した。
(2)これまでの改善案の反映状況												
令和3年度の取組改善案						反映状況						
<ul style="list-style-type: none"> 就学支援金の申請漏れや支援額の算定ミスなど、生徒の修学に影響が出ることのないよう、引き続き学校に対し適正な事務の執行に係る指導を行う。 						<ul style="list-style-type: none"> 就学支援金事務に係る情報提供を適宜行うことにより、スケジュール管理の徹底、事務手続の詳細を確認するなど、円滑な事業実施に努めた。 各学校から執行状況に係る資料を定期的に徴して内容を確認し、適正な事務の執行に努めた。 						



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・ 現行制度は平成26年度から実施されており、制度や事務手続などの周知を図ってきたところである。

○外部環境の変化

・ 全国から生徒が集まる広域通信制高校を4校所管し、生徒数は年々増加している。生徒数の増に伴い、審査に係る業務量も増加している。

・ 通信制高校に通う生徒の中には多様な家庭的背景を持つ生徒も多く、今後も事務の複雑化が懸念される。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・ 就学支援金の申請漏れや支援額の算定ミスなど、生徒の修学に影響が出ることのないよう、引き続き学校に対し適正な事務の執行に係る指導を行う必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・ 就学支援金の申請漏れや支援額の算定ミスなど、生徒の修学に影響が出ることのないよう、引き続き学校に対し適正な事務の執行に係る指導を行う。